

第 11 号

巻頭言 野町 啓

暗い絵の構図

—アウグスティヌス『神の国』XXII, 22 - 24 における悪の問題—

荒井 洋一

カシキアクムでの自由学芸

—初期アウグスティヌスと自由学芸—

水落 健治

イアンブリコス以前以後

堀江 聡

【会設立 30 周年記念特別講義】

旧約注解者ヨアネス・クリュソストモス

ロバート・C・ヒル (武藤慎一訳)

第 12 号

巻頭言 塩谷 惇子

視覚的言語のかなたへ

—『告白』第 7 巻第 10 章第 16 節・『詩篇講解』第 41 篇—

加藤 武

アウグスティヌスの『創世記』解釈と詩編の引用

—『告白』第 12 巻に即して—

田内 千里

ニュッサのグレゴリオスにおける救貧と否定神学

—名辞の神学への一試論—

土井 健司

アンティオキオア釈義学派におけるエウドキア

武藤 慎一

【ポーリーン・アレン教授講演】

21 世紀の視点から教父の社会倫理的テキストを読む際の課題

ポーリーン・アレン (土橋恵子訳)

【加藤信朗著『アウグスティヌス〈告白録〉講義』書評会記録】

加藤武 (司会)、水落健治・荒井洋一・久米博 (特定質問)、加藤信朗 (著者コメント)

ニュッサのグレゴリオスの情念論

—『魂と復活について』を中心に—

柳澤 田実

第9号

巻頭言 教父における「愛智の新しい誕生」

谷 隆一郎

異端者の生涯と思想

ポーリー・アレン

— アンティオケイアのセウエロスの場合 —

(中西恭子訳)

自然・本性（ピュシス）の開花への道

— 証聖者マクシモスにおける神化（テオーシス）の
文脈をめぐって —

谷 隆一郎

魂の階梯論における聖書解釈

— アウグスティヌス『マニ教徒に対する創世記注解』
研究叙論 —

上村 直樹

エリウゲナにおける動と静

今 義博

アレクサンドリアのクレメンスにおける「訓導者」

(paidagogos) の意義

秋山 学

アウグスティヌスにおける確実性の概念

— 『告白』第七巻から —

中川 純男

第10号

巻頭言 忘れ去られているものの記憶

加藤 信朗

アウグスティヌス『告白』第八巻における回心譚の効用について

— 「おこない」の意味 —

松崎 一平

<コスモス・ノエートス>をめぐって

— アレクサンドリアのフィロンの場合 —

田子多津子

静寂主義者グレゴリオス・シナイテスにおける祈りの随伴現象

— 視覚体験、カルディア（心臓）の熱、喜悅 —

久松 英二

“beata uita” 概念と倫理的思考の基盤—『告白』第十巻—

岡部由紀子

「造られたものを通して」知るとはいかなることか

— アウグスティヌス『告白』第十巻第六章 —

佐藤真基子

エイレナイオスの聖霊論	塩谷 惇子
エペクタシスの道行き	宮本 久雄
Augustine the Bishop in the Light of New Documents	Peter BROWN

第7号

巻頭言	宮本 久雄
アウグスティヌスの聖書解釈をめぐって ——『神の国』からの視点——	加藤 信朗
淵が淵を呼ぶ ——『告白』13・13・14——	荒井 洋一
真理観の転回 ——アウグスティヌス懐疑論批判の射程——	岡部由紀子
存在の現成のダイナミズム ——受肉・神人性の教理と愛智との関わり——	谷 隆一郎
The Neoplatonic Theme of Return in Eriugena	Édouard JEAUNEAU

第8号

巻頭言 小さな神	熊田陽一郎
アウグスティヌス、『創世記逐語注解』における 霊的被造物の向き直りについて ——アウグスティヌスの「コンウェルシオ」と プロティノスの「エピストロペー」の比較研究のために——	森 泰男
アウグスティヌスの記号論	樋笠 勝士
青銅の蛇の物語 ——予型論の意義をめぐって——	柴田 有
アウグスティヌスとストア哲学 ——『問答法について』第六章〈言語起源論〉を中心に——	水落 健治

アレイオスとアレイオス主義再考	泉 治典
ニケアとの出会い	
——ヒラリウス『三位一体論』と信仰——	出村 和彦
My Life-long Adventure with Saint Athanasius	
Charles KANNENGIESSER	

第4号

巻頭言 破黙への教父学	今道 友信
「語りえぬ者」について	
——フィロンとユスティノス——	柴田 有
オリゲネスのヨハネ福音書序文（ロゴス賛歌）の解釈	
——他のギリシア教父の解釈と比較しつつ——	小高 毅
オリゲネスにおける解釈学的原理	
——『原理論』と『ヨハネによる福音書注解』から——	久山 道彦
「ギリシア人の剽窃」に関する	
アレクサンドリアのクレメンスの見解	久山 宗彦

第5号

巻頭言	加藤 武
διαλεκτική と λογική	
——Ammonios Hermeiou, <i>In De Interpretatione</i> , Prolegomena——	水落 健治
テルトゥリアヌスの結婚観	木寺 廉太
悪を選択する自由	岡野 昌雄
Augustine's Roman Empire: Reaching out from Hippo Regius	Neil B. McLYNN

第6号

巻頭言 受容としての教父研究	柴田 有
古代の二人の歴史記述家：ヨセフスとエウセビオス	
——古さをめぐる歴史記述について——	秦 剛平

パトリスティカ既刊号目次

創刊号

- 巻頭言 加藤 信朗
- 隠喩の生成
- Ambrosius, *Hymnus* I から
Prudentius, *Liber Cathemerinon* I へ— 加藤 武
- トマス・アクィナスにおける摂理と人間の自由
—『真理論』第二問、第十二項— 渡部 菊郎
- フィロンの聖書解釈の一側面 野町 啓
- アレクサンドリアのクレメンスにおける古典学の変容
—『オデュッセイア』の解釈に向けて— 秋山 学

第2号

- 巻頭言 泉 治典
- アルクイヌスとフレデギス
- 文法学・論理学・神学をめぐる— 清水 哲郎
- ディオニシオス・アレオパギテース『神名論』における
新プラトン派的言語とキリスト教的言語
- 『神名論』第二章を中心に— 熊田陽一郎
- 教父研究の現在 今道 友信
- 〈始まり〉の問いとその行方
- 「ヘクサメロン」の西と東— 荻野 弘之

第3号

- 巻頭言 K・リーゼンフーバー
- ことばと真理
- アウグスティヌス『教師論』における問題の所在— 中川 純男